

教育目標

嵯峨・嵐山・広沢地域の豊かな自然と文化の中で、 社会人基礎力 の育成を目指す

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

- ・昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴う取組等の延期・中止、感染予防のために消毒・マスク着用・3密を避ける（ソーシャルディスタンスを保つ）などの新たな行動様式の制限された学校生活の中で、これまで当たり前になっていたことができなくなり、取組や事業そのものを見直さなければならなかった。これまで大事にしてきた「一生懸命にやること」「限界をつくらずやりきる」「あきらめずに粘り強く」などを教育活動の実践で作り出す場面が作りにくかったが、逆に「できることを、できるかたち」で何とかできることを模索して作り出せたことは、これまでの歴史を積み上げてではなく、新たな光を見出すことができた。
- ・次年度はwith コロナとして、新たな形での取組を構築することを前提に考えていきたい。
- ・学校教育目標の具現化に向けて、教職員が一丸となって教育活動に当たってくれたが、自己評価アンケート結果（後期）から「失敗することを恐れず、高い目標を設定して挑戦させていくよう指導している」で93.9%が肯定的な回答であったが、自信を持って「よく当てはまる」と回答したのが48.5%と数値がへこんでいるのが気になるところであるが、学校行事や取組を先の見えない中、手探りで生徒たちと一緒に進んでいくことを考えると頑張っていると評価できる。
- ・本校の教育活動の核となっている「嵯峨中パレード」「嵐山フィールドワーク」などの地域との協働を通して「自己有用感」の向上と地域への愛情を育むことについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、「大堰川清掃」「嵐山植林育樹の日」「小倉山植樹活動」は中止したが、2年生の「嵐山フィールドワーク」は国有林の嵐山へ入山はできなかったが、地域の方と大学の先生2名を招いてリモート講演を行うことで、来年の「嵯峨中パレード」につながると思われる。「嵯峨中パレード」は中止したが、3年生が「できることを、できるかたちで」と「継承」として各係・パートの引継マニュアルVTRを作成し、後輩たちにバトンをつなげてくれた。（送る会では2年生が、3年生へ意気込みVTRを作ってアピールをした。）
- ・教職員自己評価では、いじめ防止基本方針を理解し、組織的な対応に努めているとほとんどの教職員が回答しているが、いじめ案件（いじめにつながる案件も含めて）は起こっており、引き続き指導が必要である。生徒の人権意識を高め、実態に合った教育実践を行う必要がある。
- ・「エスノート（振り返り手帳）を効果的に活用させるように指導している。」の質問に対して、否定的な回答が18.2%もあり、その取組の目的と効果を今一度、共通理解を図る研修を行い、生徒や保護者から効果やメリットが見いだせるような取組にしていきたい。
- ・学力向上に関しては、学習確認プログラムの結果を見ると、最後のテストで全ての学年で全市平均を上回ったが、教科別に見ると、新3年では社会・理科、新2年では数学・理科が伸び悩んでいる。生徒たちにしっかりと学力をつけさせることは、学校としての責務であり、至上命題でもある。3年生の進路保障も含めて、1・2年生から学習に向かう姿勢からしっかりと見直し、やるべきことはしっかりとやりきらせるような指導を行っていきたい。また、中位層下位

	から低位にいる生徒たちが少しでも授業を受けてわかる喜び・できる喜びを知り、自分から学習に向き合えるような手立てを考えていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校に対する支援は、どんな状況にあっても応援したいとのご意見をいただいた。 ・新型コロナウイルス感染症対策のもとでの学校運営にご理解をいただいた。 ・様々な制限はあるものの地域の子どもの居場所となし、安心・安全に学校生活が過ごせるように努力してほしいと要望をいただいた。 ・中止ややめることを考えるのではなく、どのようにすればできるのか、「できることを、できるかたちで」の姿勢で取り組みを行ってほしいとのご意見をいただいた。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年9月30日	学校運営協議会（書面審議）
最終評価	令和4年2月28日	学校運営協議会（書面審議）

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領全面実施に伴い、生徒の活動を重視した授業改善や3観点評価の実施 ・基盤的ツールとしての ICT 機器の活用
<p>具体的な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 週1回の教科会を授業時間内に組み込み、教科会の充実を図り、生徒の活動を重視した授業改善の交流を行う。また、3観点評価を行うための方法を研究する。 2. GIGAスクール構想の下、学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」を育てるために、ICT機器を活用した学習場面を設定していく。 3. 学年会・教科会で学力向上に向けた議論ができるように、各教科および学習研究部で全国学力学習状況調査などの諸調査や定期テストなどのデータを分析し、課題やその改善方法等を検討するための機会を教科会や学年会などで定期的に設ける。 4. 各教科・領域において、新学習指導要領に沿った指導ができるように教材・教具の充実を図る。 5. A4版ホワイトボードによる思考の見える化を全教科で進める。 6. 校内研究授業を年2回実施し、授業交流を通して指導力向上を目指し、授業改善を図っていく。研究協議では、子どもひとり一人を見取る右京支部授業研究会のやり方を実施する。 7. 生活のリズムを整え、落ち着いて1日のスタートを切るために、一年を通して10分間の朝読書に取り組みさせる。 8. 授業に生かされる家庭学習の充実を図るため、“適切な質と量の宿題”の継続的な取り組みを行う。 9. 「振り返り力」向上をねらいとしたエスノート（フォーサイト手帳）の活用を、年間を通じて行う。 10. 定期テスト前や長期休業期間を活用して、補充学習会を実施する。 11. 週末の課題提示により、個々の生徒の興味・関心に合わせた多様な取り組みを展開していく。 12. 通常の学級に在籍する特別な支援を要する生徒について、「個別の指導計画」「個の課題に応じた指導計画」を作成し、自律して社会参加できるための支援について保護者と共に計画し、個に応

じた支援を意識し、実施していく。

13. 特別支援教育の共通理解を深め、指導に役立てるための研修会や事例研修を行う。
14. ユニバーサルデザインの観点から、学校全体の環境整備を進める。
15. 若手教員の育成・支援や指導力の向上、また若手教員と中堅教員との繋がりを深めて、互いに切磋琢磨できるようなOJTを充実させる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学習確認プログラム(全学年)の結果 ※数値等の結果は不掲載とします。
- ・教職員自己評価(言語活動の充実、授業形態の工夫、特別支援教育への知識と実践)
- ・生徒アンケート(聞くことの姿勢、発表・書くことへの意欲・関心、家庭学習の習慣、エスノート活用)
- ・保護者アンケート(授業の工夫、家庭学習の習慣)

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

○学校評価アンケート(後期)12月実施

・教職員自己評価(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

創意工夫のある授業を行い、学びに向かう姿勢を高められるよう指導している	100%
生徒たちの「聞く」姿勢を高められるよう、意識して指導している。	100%
生徒たちの考えを様々な方法で表現させる活動を行う等、アウトプットを意識して指導している。	93.9%
生徒たちに、エスノートを効果的に利用させるよう指導している。	81.8%

・生徒アンケート(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

自ら進んで学習に取り組んでいる。	74.6%
友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞いている。(「聞く」姿勢)	95.9%
授業の内容は、よくわかる。	84.4%
家庭での学習に、自主的に取り組んでいる。	63.9%
エスノートを利用して、計画的に過ごしている。	41.7%

・保護者アンケート(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

お子さんは、自ら進んで学習に取り組んでいると思われますか。	68.4%
お子さんは、人の話をしっかりと聞くことが出来ていると思われますか。(「聞く」姿勢)	79.1%
学校では、わかりやすい授業が行われていると思われますか。	91.2%
お子さんは、家庭での自主学習に取り組んでいると思われますか。	59.9%
お子さんは、エスノートを利用して、毎日の生活を過ごせていると思われますか。	52.2%

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

○学習確認プログラム・ジョイントプログラム

授業・家庭学習および予習・復習シートの活用(自主学習・提出)を行うことで、学力向上を図っている。3年生は全ての教科において、大きく平均を上回る成果をあげている。前期に課題のあった2年生もPreStage3rdでは挽回することができた。特に、数学科では引き続き、成果を上げている。社会・理科が伸び悩んでいるので、授業改善も含めて次年度取り組んでいく。1年生については、国語・社会、そして英語に大きく平均を上回る成果を上げている。数学・理科が伸び悩んでいるので、授業改善も含めて次年度取り組んでいきたい。

○授業

学校評価アンケート結果から、授業での内容はわかる(わかりやすい授業)の項目では、生徒は約8.5割、保護者は9割強と高い結果が出ており、おおむね良好である。ただ、自学自習や自ら進んで学習するなどの項目が前期と比べてほとんど改善していない。この部分で生徒たちや家庭での学習の習慣づくりまで至っていないのがわかる。次年度の課題としたい。教職員自己評価から、新型コロナウイルス感染拡大に伴う学級閉鎖やオンライン学習の必要性もあり、GIGAスクール構想でのタブレット端末を用いた授業改善など積極的に進めている。

○特別支援教育

総合育成教育主任の号令で、研修会やケース会議を毎月行っている。また、「個別の指導計画」の作成を徹底し、保護者への周知も行っている。また今年度より新設となったLD等通級教室の環境整備を7月くらいまで整備に時間を要し、2学期から本校での入級生徒をケース会議、学年会、保護者面談等で慎重に判断して、その子に応じた手立てや取組を考えて指導を行い始めている。

○家庭学習

学校評価アンケート結果から、「家庭での学習に自主的に取り組んでいる」の項目では、生徒は約7割5分、保護者は約7割弱となっている。前期に比べて約5～10ポイント程度改善しているが、まだまだ生徒やご家庭で計画的に学習をする習慣を構築できていないと思われる。次年度への課題として取り組んでいきたい。

○エスノート(振り返り手帳)の利用

全校生徒にエスノートを導入して以来、日々の生活の中で「時間を気にする」ようになり、「計画をたてること意識する」ようになっている。その活用については、学校評価アンケート結果から、生徒は約4割強、保護者は約5割強と、前期より下回っている。教職員の自己評価では、約8割強が指導しているとの認識から指導と成果が乖離している。次年度に向けて、学級担任・教科担任ともにもう一度活用方法等を研修して生徒たちが自主的に、意欲的にエスノートを活用できるようにしていきたい。

○ユニバーサルデザインの観点からの環境整備

京都嵯峨学園(小中連携)の取組の一環として、教室内のホワイトボード、時計、掲示物、黒板、カーテン、廊下の壁の色など統一した規格に設定を行っている。特に特別支援教育と中1ギャップ解消には一定の効果があると思われる。次年度も継続して取り組んでいきたい。

分析を踏まえた取組の改善

○学習確認プログラム等の結果

3学年とも今年度は回を重ねるごとに改善し、全教科で全市平均を上回る結果となった。予習シート→テスト→復習シートのサイクルで指導の手をきちんと入れることで生徒たちの成績が向上したと思われる。次の課題は、学力中位から下位の生徒たちへの手立てを手厚くすることでさらに底上げを図っていきたい。引き続き、運営委員会、学力向上委員会より強力な発信をして、学年会、教科会等での取組改善を図ってもらえるよう取り組んでいきたい。

○学習活動

この2年間は新型コロナウイルス感染防止のために、会話による話し合い活動・グループワークが制限されたが、本校で数年前より配備したエスボード(A3・B4)、昨年度導入した全員配布のエスボード(A4)、そしてGIGA端末と声を発する会話ではない方法でのグループワークやペアワークなどを積極的に取り組むことができた。引き続き、ハイブリッドで「主体的・対話的で深い学び」なるような授業改善に取り組んでいきたい。

	<p>また、研究授業や授業公開など、互いに授業を参観し合う機会を設けて、特に若年教員の指導力向上につなげていきたい。</p> <p>○特別支援教育への理解と実践</p> <p>支援の必要な生徒も各学年に在籍しているため、今後も引き続き研修会、ケース会議を実施していく。</p> <p>○エスノート（振り返り手帳）</p> <p>今年度の結果を受けて、次年度の年度当初に新転任者を含めて教職員の研修を行い、全学年ともに共通理解を図った上で取組を行っていききたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>「学ぶ意欲を高める丁寧な指導をしていただいている」「教育の新しい流れを積極的に取り入れている」との評価をいただき、学力向上に向けて、さらに取組を進められることを期待する。</p> <p>・エスノート（振り返り手帳）の取組が、生徒・保護者・教職員ともに評価が低いので、今一度取組の主旨・目的を確認し、取組を抜本的に改善することが必要である。</p>

(2)「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主体的に考え、行動できる生徒の育成 ○人権を尊重し、思いやりの心に富む生徒の育成 ○正義や公正を重んじる心、および、規範意識を持つ生徒の育成 ○よりよい社会の実現を目指す生徒の育成 ○地域を愛し、地域の環境や地域の伝統を大切にする心を持ち、地域に貢献できる生徒の育成 ○よりよい社会の実現を目指す生徒の育成 ○道徳的価値を理解することを通して内省し、多角的に考え、判断する能力の育成 ○考え、議論する道徳授業の実施
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間をはじめ、あらゆる教育活動の場面において道徳教育を進めるという意識を高める。 ・生徒の実態を応じた授業のめあてを設定し、教科書を基盤とした年間指導計画を作成し、22項目を網羅する。 ・エスや特別活動（伝統文化体験を含む）、他教科の授業とのカリキュラム・マネジメントを図り、指導内容および時期を計画・実施する。 ・主体的・対話的で深い学びを実現するために、授業の形態・発問の工夫・教材の提示方法を工夫する。 ・授業中の発言・ワークシートから生徒の人間的な成長の振り返りや道徳性の育みを見とり、評価し、学年末の通知票にて提示する。 ・研究授業を行い、小学校での道徳の学習を発展的に中学校で活用できるよう検討する。 ・年2回公開授業を実施し、保護者に周知する機会を設ける。
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Q-U調査及びクラスマネジメントシート ・道徳の生徒自己評価（学期ごと） ・教職員自己評価（保護者対応、生徒とのつながり、地域とのつながり） ・生徒アンケート（公共の精神、地域行事への参加、規範意識、自己有用感）

・保護者アンケート（生徒の規範意識，学校のつながり，子どもの自己有用感）

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・Q-U調査及びクラスマネジメントシート
- ・道徳の生徒自己評価（学期ごと）
- ・教職員自己評価（保護者対応，生徒とのつながり，地域とのつながり）
- ・生徒アンケート（公共の精神，地域行事への参加，規範意識，自己有用感）
- ・保護者アンケート（生徒の規範意識，学校とのつながり，子どもの自己有用感）

自己評価

分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題

○Q-U調査及びクラスマネジメントシート

全てのクラスで，おおむねの生徒が「学校に通うのは楽しい」と回答している。

（学級ごとの課題や個別事象について，学年会や生徒指導委員会等で共有し，取組を進めている。）

○学校評価アンケート（後期）12月実施

・教職員自己評価（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

生徒たちに，学校や社会のルールを守らせるよう指導している。	100%
失敗することを恐れず，高い目標を設定して挑戦させるよう指導している。	93.9%
生徒たちの間違った言動や行動に対して，その場で指摘し，きちんと指導している。	100%
「一生懸命はカッコいい」と目指す生徒の育成に向けて教育実践をしている。	90.9%
地域と共にある学校づくりを意識して，特色ある教育活動を行っている。	90.9%
HPや学年・学級通信などで，積極的に情報の発信や提供をしている。	90.9%
生徒たちに，将来の夢や希望を持てるような指導（キャリア教育）をしている。	93.9%

・生徒アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

学校や社会のルールを守れている。	97.4%
困難なことでも，失敗を恐れず挑戦している。	74.0%
みんなで協力してやり遂げたとき，うれしいと感じることがある。	93.9%
日々の生活の中で，「一生懸命はカッコいい」を実践している。	70.0%
地域や社会をよくするために，どうすべきかを考えたり，行動しようとしている。	69.6%
将来の夢や希望を持っている。	72.9%

・保護者アンケート（「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計）

お子さんは，学校や社会のルールを守って行動していると思われませんか。	94.3%
お子さんは，何事も失敗を恐れず，挑戦しようとしていると思われませんか。	72.4%
お子さんは，周りの人と協力して，課題を解決しようとしていると思われませんか。	87.5%
お子さんは，日々の生活に対して，一生懸命に取り組んでいると思われませんか。	84.2%
HPや学年・学級通信など，情報の発信や提供ができていると思われませんか。	89.9%
お子さんは，自分の夢や目標を持てるような活動ができていると思われませんか。	76.5%

分析を踏まえた取組の改善

○学校生活について

教職員自己評価では、ほぼ9割以上の評価となっているものの、生徒アンケートでは、「失敗を恐れず挑戦」「地域や社会に貢献」「一生懸命はカッコいい」「将来の夢や希望が持てる」などで6～7割程度であった。例年より数値が低いのは、本校の特色ある取組（行事）等がコロナ禍で中止や制限される中で実感できない生徒も多いのではないかとと思われるが、前期よりも後期の数値は約 5 ポイントから 10 ポイント程度上回っている。これは、3年生を中心に、行事や取組を中止したものの何とか後輩たちに伝えなければと継承VTRを作成したことや、3年生を送る会で2年生たちが継承VTRを受けて、自分たちがそのバトンを受け継ぎ頑張るぞと意気込みVTRを作成するなど、コロナ禍だからこそその取組を行ったことが大きい。保護者アンケート結果は概ね高い数値（8割以上）ではあるが、「失敗を恐れず挑戦」「夢や目標が持てる活動」については7割程度とやや低く、目先の進路（高等学校等）だけでなく、将来を見通した進路や生き方に対する指導も行う必要性を感じた。

○地域とのつながりについて

本校が長年にわたって、「地域とともにある学校」を目指し、地域との連携をはじめ、地域行事にも積極的に関わってきたことで、生徒の意識も高まっていると思われる。また、「働き方改革」や「部活動ガイドライン」遵守に伴い、部活動の時間も減り、地域や家庭での時間が増えてきたことも影響していると考えられる。ただ、例年の結果と比べて、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域との連携した取り組みや地域行事はほとんど中止しており、どの学年も実感が持てていないのが現状である。次年度は何とか実施することで生徒たちへ実感させていきたい。

○豊かな心の育成について

自己有用感・自尊感情を高める教育活動の実践や楽しく過ごさせるための学級経営に取り組み、間違った言動や行動・態度を見過ごさない生徒指導を行っていくことで、生徒たちが安心・安全に過ごせる学校になるように取り組んでいる。おおむね保護者の賛同や理解も得られていると思われる。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

丸2年、これまで地域とともに取り組んできた本校の特色ある取組（行事等）はほとんど中止となり、中学生として実際に行った記憶のある学年（3年生）も卒業してしまい、来年度は0からの再出発となる。これまでは延期・中止で仕方がないではなく、開催・実施する方法を何とか見つける方向で学校も考えてもらいたいとの話をいただいた。長い年月をかけて築き上げてきた地域連携を、今年度のスローガンである「できることを、できるかたちで」を継承して、ぜひとも開催・実施して、地域の中で活躍する中学生たちの姿を見たいとの話をいただいた。

(3)「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

- 生徒の健康と生活実態を把握し、健康な生活が送れる習慣を育てる。
- 生徒一人一人が自らの心身の健康や安全について理解し、生涯を通して健康や安全の保持・増進しようとする態度や感染症感染対策の意欲を培う。

具体的な取組

- ・学校教育目標である「社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力・地域貢献）」の育成を目標に、教科、道徳、総合の時間、学校行事において、また地域とのつながりも大切に、豊かな心と健やかな体の育成に努める。
- ・生活習慣の乱れ、ストレスや不安感の高まっている現状を踏まえ、こころの健康を含め自らの健康

- を維持し、改善することが出来るように日々の観察と教育相談等の機会を使って指導、助言する。
- ・性教育学活を行う。(生命誕生や男女交際、性感染症に関する知識を深めさせる。)
- ・防煙教室、薬物乱用防止教育を行う。(その有害性・危険性について認識を深めさせ、好奇心や人からの勧め等に関して、適切に対応できる態度を養わせる。)
- ・保健委員会活動の「換気点検」「生活習慣見直し習慣」「ランチョンマット点検」の実施や朝学活での「健康観察(タブレット導入)」で生徒の健康把握に努める。
- ・生徒及び保護者が、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるように、積極的に食教育に取り組む。(保健委員会が実施)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・教職員自己評価(あいさつ、思いやり、食事・休養)
- ・生徒アンケート(あいさつ、思いやり、食事・休養)
- ・保護者アンケート(あいさつ、思いやり、食事・休養)
- ・生活習慣についてのアンケート(保健委員会)前期(4～5月)実施
- ・給食の申込数調査

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・教職員自己評価(あいさつ、思いやり、食事・休養)
- ・生徒アンケート(あいさつ、思いやり、食事・休養)
- ・保護者アンケート(あいさつ、思いやり、食事・休養)
- ・生活習慣についてのアンケート(保健委員会)後期(11～12月)実施
- ・給食の申込数調査

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

○学校評価アンケート(後期)12月実施

- ・教職員自己評価(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

生徒たちに、場に応じたあいさつの習慣を身につけさせるよう指導している。	100%
生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している。	100%
食事や休養など、自分の身体のことに関心を付けて生活ができるよう指導している。	87.9%

- ・生徒アンケート(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

自分から気持ちの良いあいさつをしている。	84.6%
周りの人を思いやるような言動や行動をしている。	90.2%
食事や休養など、自分の身体のことに関心を付けて毎日の生活を送っている	82.8%

- ・保護者アンケート(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

お子さんは、気持ちの良いあいさつや返事ができていると思われませんか。	86.2%
お子さんは、周りの人を大切に、仲良く過ごせていると思われませんか。	87.5%
お子さんは、食事や休養など、自分の身体のことに関心を付けていると思われませんか。	82.8%

○生活習慣のアンケート(保健委員会)後期(11～12月)実施

- ・いつも何時頃に就寝しますか。(無回答0%)

午後10時までに就寝。	13.3%
午後10時から午後11時の間に就寝。	27.8%
午後11時から午前0時の間に就寝。	29.6%

午前0時から午前1時の間に就寝。	21.1%
午後1時以降に就寝。	8.3%

・いつも何時頃に起床していますか。(無回答6.6%)

午前7時までには起床。	57.3%
午前7時から午前7時30分の間に起床。	33.7%
午前7時30分から午前8時の間に起床。	8.1%
午前8時以降に起床。	0.9%

・朝食は、毎日食べていますか。(無回答0%)

毎日食べている。	82.4%
食べている日の方が多い。	12.6%
食べていない日の方が多い。	0%
食べていない。	5.0%

○給食の申込数調査

約4割強の生徒が、給食を申し込んでいる。

保健委員会で、生活習慣(特に起床時間、就寝時間)のアンケートから夜遅くまで起きている生徒、朝遅くまで寝ている生徒の割合が、学年進行とともに多くなっている。特に3年生を中心に深夜まで起きていて(午前1時以降に就寝が8.3%)、朝が起きられない生徒もいるので、家庭とも連携して改善を求めている。

また、朝食の調査では、前期より少し増えて約8割強の生徒が毎日食べていると回答しているが、食べていない日が多いや食べていないと回答する生徒が5%と前期に比べると少なくなったが、学校での学習に影響が出ることも食育の観点からも話をすることで改善を求めている。

本校の給食申込率は4割以上と、とても高く、中学生が摂取すべきエネルギーや必要な栄養素をしっかり摂ることが出来ている生徒が多い。

学校生活を送る中で、アンケートの結果からもあいさつの励行や他者を思いやる言動・行動ができる生徒が多いので、お互いにストレスを抱くことなく毎日を送ることができていると思われる。

健康に関わる部分は、新型コロナウイルス感染症対策で行っている「マスクの着用」「うがい・手洗いの励行」「常時換気」等を、常に指導・実施している。また健康観察・検温も毎日の実践することで、常に自分の健康状態を把握している。

分析を踏まえた取組の改善

新型コロナウイルス感染防止やマスク着用の徹底を行う中で、しっかりとあいさつをすることがしにくくなっていると思われる。多くの生徒は自分からできているが、こちらから声掛けや取組をしないとできなくなっている傾向がある。コロナ禍が with コロナとなる中で、再度、取り組んでいきたい。

生活習慣の改善に向けた取組(早寝・早起き・朝ごはんの実践)を生徒会や保健委員会の活動を中心に継続して取り組んでいきたい。

食育に係る部分も継続し、さらに生徒たちの実践につながるようにしていきたい。安心して過ごせる学校を維持するために、教職員で学級・学年・全校生徒の日々の様子をしっかりと見取り、わずかな兆候やサインなどの見落としがないようにしていく。

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>コロナ禍でマスクを着用しつつ、あいさつをしっかりとできている嵯峨中生にお褒めの言葉をいただいた。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、出来る限りの対策を講じ、安心・安全な学校生活が送れるよう、そしてこれまで中止となっている行事や取組を支えていただきたいとのご意見をいただいた。</p>
---------	---

(4) 学校独自の取組

<p>重点目標</p> <p>京都嵯峨学園（3小1中）としての教育活動の充実を目指す。</p>
<p>具体的な取組</p> <p>①新学習指導要領に対応した教育課程の編成と実施（授業改善とカリキュラムマネジメント）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科における「つながり」を意識した授業の工夫・改善 ・家庭での自学自習の習慣化（振り返りの重視とエスノートの活用） ・困りのある生徒の実態に応じた合理的配慮の実施（教育環境整備の重視） ・「特別の教科 道徳」の実践（重点内容項目… B 礼儀, C 伝統と文化） ・アウトプットの重視（自身の考えを多様な方法で表現させる活動） ・諸調査結果を活かした授業の改善を図る。 ・妥当性、信頼性に基づいた学習評価を実施（評価ソフトの活用、説明責任）する。 ・課題解決に向けた補充学習を実施する。 <p>②伝統文化教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化教育推進委員会を設置して推進を図る。 ・既存の取組の関連付けと整理を図る。 ・指定事業を実施する。 <p>③小中一貫（京都嵯峨学園）教育活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育推進体制の強化を図る。 ・9年間を見通したカリキュラム・マネジメント（小学校の学習内容の理解と関連の検討） ・地域を含めた小中連携による授業・行事等の取組（「京都嵯峨学園」としての取組）を推進する。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域連携・協働） ・生徒アンケート（自学自習、アウトプット、地域貢献） ・保護者アンケート（自学自習、アウトプット、地域連携、京都嵯峨学園に対する理解） ・学校運営協議会の評価 他

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員自己評価（学習指導、生活指導、自身の意識改革、地域連携・協働） ・生徒アンケート（自学自習、アウトプット、地域貢献） ・保護者アンケート（自学自習、アウトプット、地域連携、京都嵯峨学園に対する理解） ・学校運営協議会の評価 他

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

○学校評価アンケート(後期)12月実施

・教職員自己評価(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

「つながり」を意識した授業への工夫や授業改善を行っている。	93.9%
目標やめあてを提示するなど、わかりやすい授業となるような工夫や取組をしている。	100%
思考・判断・表現力等を高められるよう、意識して指導している。	93.9%
生徒たちの考えを様々な方法で表現させる活動を行うなど、アウトプットを意識して指導している。	93.9%
家庭学習で、自学自習の力を身に付けさせるよう指導している。	87.9%
地域と共にある学校づくりを意識して、特色ある教育活動を行っている。	90.9%

・生徒アンケート(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

授業で、自分の考えが広がったり、深まっていると思うことがある。	75.5%
授業で、自分の考えを持ち、しっかり話したり。書いたりしている。	80.0%
家庭での学習に、自主的に取り組んでいる。	63.9%
地域や社会を良くするために、どうすべきかを考えたり、行動しようとしている。	69.6%

・保護者アンケート(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)

お子さんの思考が広がったり、深まったりしていると思われませんか。	83.9%
お子さんは、自分の思いや考えを表現することができていると思われませんか。	80.4%
お子さんは、家庭での自主学習に取り組んでいると思われませんか。	59.9%
ご家庭で、お子さんと地域や社会のことについて、話をすることがありますか。	80.5%
京都嵯峨学園の名称を、保護者や地域に知っていただけていると思われませんか。	82.5%
京都嵯峨学園の教育活動について、情報の発信や提供ができていると思われませんか。	82.1%
京都嵯峨学園が、3小1中の連携した教育活動として取り組んでいると思われませんか。	82.5%

○京都嵯峨学園としての活動

嵯峨中パレードは中止したが、生徒たちが考えて企画(継承VTR作成)を進めることができた。

三小交流すもう大会も中止、嵐山フィールワークも中止と特色ある取組は行えなかったが、嵐山FW講演会を実施したり、生徒たちが「できることを考え、できる形で」行ってくれた。

○小中合同教科、分掌・係別会議

今年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、夏の合同研修はできなかったが、主任研修会のみ実施した。春にできなかった合同授業研修を、秋に小中それぞれが研修授業を出し、小中合同研修を行うことができた。

○ホームページ

校務分掌の中に、記録・広報係として各学年に設置することで、学年の取組をタイムリーに更新することができ、情報発信をすることができた。来年度は学年ごとのフォルダを作成して、積極的に学年の係から発信してもらう。

○京都嵯峨学園の認知度

京都嵯峨学園だより等の発行を通して、認知度が前期より後期に改善された。今後も取り組みが保護者や地域にもきちんと伝えるようにしていく。

分析を踏まえた取組の改善

12月には小中連携事業の一環として、中学校体験授業・部活動見学を予定している。新型コロナウイルス感染拡大の中、しっかりと感染症対策を講じて実施することができた。

	<p>3月には年末に行うはずであった嵐山フィールドワークについて。地域の方と大学の先生2名をお招きして、リモートで講演をいただいた。次年度へ活かしていきたい。</p> <p>京都嵯峨学園の認知度を高めるため、小中学校の教頭が「京都嵯峨学園だより」を発行して、情報発信をしているが、今年度は、昨年度同様に「嵯峨中パレード」「小中連携事業(中学校授業体験・部活動見学)」のみとなったが、次年度は小学校教頭とも連携して。</p>
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大に伴い、地域も学校もほとんどの行事を中止したり、縮小している状況であるが、できないとあきらめるのではなく、どうすればできるのかを考えて、準備を進めていきましょうと確認しました。</p>

(5) 教職員の働き方改革について

<p>重点目標</p>	<p>新しい時代の教育に向けた、持続可能な学校指導体制の構築と教職員の意識改革</p>
<p>具体的な取組</p>	<p>①勤務時間を意識した働き方の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員朝礼や職員会議で、日々の退勤時間を早くするように伝える。 ・庶務事務システムを利用した勤務時間の把握及びデータ分析及び活用する。 ・職員健康日(原則、毎週水曜日)については、午後6時30分までに退校する。 ・ストレスチェックを実施する。 ・超過勤務が多い教職員には、積極的に学校健康医による面談を実施する。 ・PTA、地域の方々、学生ボランティア等の活用を図る。 ・スクールカウンセラー、総合育成支援員、学校司書、ALT等の連携を図る。 ・留守番電話の設定をする。(午後7時頃～午前8時頃) ・学校閉鎖日についての理解と協力を得る。 <p>②「学校働き方改革宣言」の周知徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への啓発を行い、理解と協力を得る。 ・学校運営協議会で説明し、ご意見をいただくとともに理解を得る。 ・学校行事の精選と見直しをする。 ・業務の分散化する。 <p>③部活動の適切な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動ガイドラインの徹底を図る。 ・朝練習の廃止(令和2年度より) ・外部コーチ、部活動支援員、合同部活動、保護者引率の活用を図る。 ・週1回、ノ一部活動日を実施する。(会議を集中させて行う日として設定) <p>④振替等の適切な運用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代休、割変の確実な取得を図る。 <p>⑤ハラスメントの防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員面談を実施する。 ・風通しのよい職場づくりを推進する。 <p>⑥育児、介護を伴う教職員への配慮</p>

- ・部活動終了，完全下校時間を勤務時間内に設定し，超過勤務をしないで勤務できる条件を整える。
- ・特休等が取得しやすい職場環境をつくる。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間の確認
- ・教職員自己評価 (意識改革，地域との連携，協働)
- ・保護者アンケート (働き方改革に関する理解)
- ・学校運営協議会の評価 他

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果

- ・出退勤管理システムでの毎月の時間外勤務時間の確認
- ・教職員自己評価 (意識改革，地域との連携，協働)
- ・保護者アンケート (働き方改革に関する理解)
- ・学校運営協議会の評価 他

自己評価

分析 (成果と課題)，重点目標の達成状況，次年度の課題

○毎月の時間外勤務時間が，45時間以上および80時間以上をを超えた教職員数

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
80時間以上	0名	0名	0名	0名	0名	
45時間以上	17名	10名	10名	9名	7名	

○教職員自己評価 (「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計) 後期 (12月)

ライフワークバランスを意識した働き方になるよう，働き方改革に努めている。	87.9%
--------------------------------------	-------

○保護者の意識，理解

留守番電話の設定 (午後7時～午前8時) や夏季休業中での学校閉鎖日 (年休取得促進日) 等々を行い，大きな苦情もなく理解を得られている。

○「働き方改革」推進のための取組

部活動の朝練習廃止，練習時間の短縮 (平日は年間を通じて16時45分終了・16時55分完全下校)，育児・介護等をしておられる教職員全員が退勤時刻で退校できる条件整備を行っている。

週1日の職員健康日 (午後6時セット)，通常日も午後7時セット (遅くとも午後8時セット) を年度当初に告知し，生徒指導や行事等の取組繁忙時以外は意識して取り組んでもらえるようお願いしている。休日の職員室での執務をしないために，セット解除をしないことを告知し，部活動時に必要なカギ (保健室<AED・緊急時使用する PHS 常備>および中校舎の扉など) を準備して，休日は部活動指導のみとお願いしている。

○新型コロナウイルス感染拡大に伴う消毒作業の負担軽減の取組

全教職員で消毒を行うために，消毒開始時間を勤務時間内に入るように，部活動終了および完全下校時刻を勤務時間内におさめるように取り組んでいる。

分析を踏まえた取組の改善

電話対応終了時刻を19時，退校時刻を19時30分に設定して新年度をスタートさせ，学年黒板には18時までに帰宅できるような働き方にするように，日頃の仕事のやり方を見直していくように呼びかけているが，実際には20時前後に全員が退勤することになっている。次年度は小中での申合せにより，電話対応終了時刻を18時30分，セット時刻を19時に設定して，退勤できるように取り組んでいく

	<p>い。(8時出勤, 18時30分退勤で時間外勤務2時間となる。このラインを越えないような働き方となるように教職員に呼びかけていく。)</p> <p>また, 自分の勤務時間を出退勤管理システムで管理することで, ライフワークバランスを意識した生活を送ることができている。しかし, 月80時間を超える教職員もいることから, さらなる意識改革も必要となっている。また, 総合育成支援員, SC, 学校司書, ALT, 部活動の外部コーチに加え, 校務支援員・観察実験アシスタント・部活動支援員等の協力を得ることで, 教職員の負担軽減につながっている。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>社会全体で, 「働き方改革」が進んでいるので, 学校現場でも積極的に進めていく必要があるとのこと意見をいただいた。</p>

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標	いじめの未然防止及び早期発見, いじめに対する迅速かつ適切な対応のための取組を組織的に行う。
具体的な取組	「学校いじめの防止等基本方針」に同じ
(取組結果を検証する) 各種指標	<p>①学校のいじめ対策委員会のメンバーを児童生徒に紹介している。</p> <p>②保護者や学校運営協議会等に, 学校いじめ防止基本方針や学校の取組を説明・周知している。</p> <p>③教職員の自己評価</p> <p>「ひとりひとりの生徒を大切に, 楽しい学校生活を送れるよう指導している。」</p> <p>「生徒たちが, 互いに認め合い, 励まし合い, 支え合うことができるよう指導している。」</p> <p>「学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して, 組織的対応に努めている。」等</p> <p>④生徒アンケート (いじめに関するアンケートを含む)</p> <p>「学校生活は楽しく過ごせている。」</p> <p>「困ったことや悩んでいることを, 先生や友達に相談している。」</p> <p>「いじめはどんな理由があってもいけないことである。」</p> <p>「自分には良いところがある。」</p> <p>「先生はあなたの良いところを認めてくれている。」等</p> <p>⑤保護者アンケート</p> <p>「お子さんにとって, 学校は「安心・安全」に過ごせる場所だと思われませんか。」</p> <p>「お子さんは, 周りの人を大切に, 仲良く過ごせていると思われませんか。」</p> <p>「お子さんは, 悩みや困りごとに対して, 学校で相談できていると思われませんか。」等</p>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	<p>①教職員の自己評価</p> <p>「ひとりひとりの生徒を大切に, 楽しい学校生活を送れるよう指導している。」</p> <p>「生徒たちが, 互いに認め合い, 励まし合い, 支え合うことができるよう指導している。」</p> <p>「学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して, 組織的対応に努めている。」等</p>
---------------------	--

②生徒アンケート(いじめに関するアンケートを含む)

- 「学校生活は楽しく過ごせている。」
- 「困ったことや悩んでいることを、先生や友達に相談している。」
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことである。」
- 「自分には良いところがある。」
- 「先生はあなたの良いところを認めてくれている。」等

③保護者アンケート

- 「お子さんにとって、学校は「安心・安全」に過ごせる場所だと思いますか。」
- 「お子さんは、周りの人を大切に、仲良く過ごせていると思えますか。」
- 「お子さんは、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思えますか。」等

自己評価

分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題

①「未然防止」「早期発見・事案対処」「学校基本方針に基づく各種取組」などの役割を明確化し、自らの存在及び活動内容が生徒及び保護者に認識してもらえる取組(全校集会の際にいじめ対策組織の教職員が生徒の前で取組を説明する等)を実施した。教職員が、いじめに関する情報を学年会や補導部会、生徒指導対策委員会、いじめ・不登校対策委員会等に報告し、組織的に情報を共有して対応策を協議している。あわせて教職員が、いじめに係る情報を抱え込むことは、法律の規定に違反することも確認している。

②学校いじめ防止基本方針については、年度当初保護者に周知するとともに、学校ホームページに掲載している。学校の取り組みについては、学級・学年だより、学校ホームページ等を通して、説明・紹介・周知をしている。職員会議では、毎回、学年や各クラスの状況を報告するとともに、いじめに係る情報を共有し、組織的な指導体制で取り組んでいる。

③教職員自己評価(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)後期(12月)

ひとりひとりの生徒を大切に、楽しい学校生活を送れるよう指導している。	100%
生徒たちが、互いに認め合い、励まし合い、支え合うことができるよう指導している。	100%
学校いじめ防止等基本方針の内容を理解して、組織的対応に努めている。	100%

④生徒アンケート(いじめに関するアンケートを含む)(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)後期(12月)

学校生活は楽しく過ごせている。	95.4%
困ったことや悩んでいることを、先生や友達に相談している。	68.3%
いじめはどんな理由があってもいけないことである。	96.6%
自分には良いところがある。	74.7%
先生はあなたの良いところを認めてくれている。	75.2%

⑤保護者アンケート(「そう思う」・「ほぼそう思う」を合わせて集計)後期(12月)

お子さんにとって、学校は「安心・安全」に過ごせる場所だと思いますか。	97.7%
お子さんは、周りの人を大切に、仲良く過ごせていると思えますか。	95.7%
お子さんは、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思えますか。	73.4%

日頃から生徒から発信するサイン(発言・態度・行動)を見逃さないようにして、いじめの早期発見に努めている。また、いじめのアンケート等を実施するとともに、保護者懇談や教育相談等を通して、生徒の悩みや保護者の不安解消に努めるとともに、定期的にいじめ・不登校対策委員会を実施し、養護教諭やスクールカウンセラーも加わり、多角的に情報を共有するとともに、組織的対応をしてきた。

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますかという問いに、そう思う、どちらかといえ

ばそう思う を合わせて、96.6%であり、学校全体としても、「いじめは決して許されないことである」という意識をすべての教育活動でひとりひとりに徹底していく必要がある。

日頃から全ての教職員が、ひとりひとりの生徒を徹底的に大切に、楽しい学校生活を送れるようにしていると思っている。しかし、生徒のアンケートでは、「学校生活は楽しく過ごせている。」の問いに95.4%が肯定的な回答であり、30名ほどはやや否定的な回答である。保護者アンケートでは、「お子さんが、悩みや困りごとに対して、学校で相談できていると思われませんか。」の問いに対して、肯定的な回答が73.4%と前期に比べると改善傾向であるが低い数値であった。コロナ禍の影響もあると思われるが、生徒や保護者が相談しやすい雰囲気や環境を整えるとともに、生徒に寄り添うとともに、小さな声をしっかりと聴き取り、心のかもった指導をしていかなければならないと考えられる。

また、「お子さんにとって、学校は「安心・安全」に過ごせる場所だと思われませんか」の問いに、肯定的な回答が97.7%と学校への信頼・期待度は高い。今後とも小さなサインを見逃さず、全校指導体制で取り組んでいく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

まず学級担任が、ひとりひとりが発信するサインを見逃さずに、きめ細かな指導を徹底していく。ごく短期間のうちに解消したいじめ事案についても、学校が組織（学年会・いじめ対策委員会）として把握し（いじめの認知）解決に向けた取り組みを行う。道徳の授業はもとより、学級活動、生徒会活動等の特別活動において、生徒が自らいじめの問題について考え、議論する活動を推進する。日頃の何気ない会話はもちろん、教育相談等を通して、常に学年を中心に情報を共有しながら、未然に防ぐべく組織的な一枚岩となった指導体制を構築していく。

いじめが起こった場合には、被害者生徒に寄り添い、「絶対守る」「必ず解決する」という学校の姿勢を示し、その生徒のことを最優先に考える。また、丁寧な聴き取りをするとともにクラス内・学年だけではなく、定期的に行っているいじめ・不登校対策委員会で共有するとともに、市教委（生徒指導課・学校指導課）や関係機関（児童相談所等）への正確かつ速やかな連絡・連携、対応の協議に努めていく。

クラスマネジメントシートやQ-U調査等の分析を通して、学級集団の把握と個々への対応策の検討・実践をしていく。

日々の欠席状況（遅刻、早退含む）や保健室の来室状況（回数、内容）を教職員で共有し、気になる生徒の早期発見に努めていくとともに、不登校生徒への組織的な対応（学年会・不登校対策委員会での共有・検討）をしていく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

コロナ禍の中で、できる限りの教育活動を行っていただき、ありがたいとご意見をいただいた。今後も引き続き、生徒たちのために、教職員一丸となって、地域の子どもたちのために努力してほしいとのご要望をいただいた。保護者や地域、各諸団体としても、中学校の教育活動について、全力で支援・協力をさせてもらうとのご意見をいただいた。